

自分のものだと思って 洗ってみな

大衆居酒屋でのアルバイト。ピークの時間帯は息つく暇もない。

人目につきにくい洗い場は、特に「素」が出てしまう。忙しさと量の多さに追従するかの

ごとく、気持ちも手つきもいつしか煩雑に。

《ガチン》。大ジョッキと焼酎グラスの衝突、結果はお察しの通りである。

ワレモノ処理をそそくさと済ませ、作業を続けるとそこに店長。『怪我無いか？よかった。

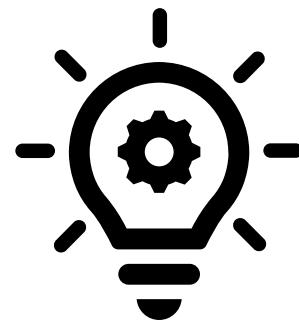
よし、そしたら一点だけ。今、手に持ってるそのジョッキ、これからは・・・』

いかにものの見方ひとつか。わたしの行いは。

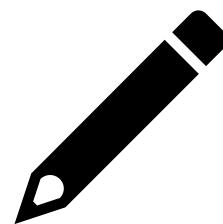
Vo.35

和而不同

ありきな議論に見慣れることも聞き慣れることもあつてはならないように思う▼戦後を代表する国際的知識人、加藤周一氏（立命館大学国際平和ミュージアム館長など歴任）は「戦争の準備をすれば戦争になる確率は高まる。平和を望むなら平和の準備をすべき」と語った▼構えた銃口の先にあるものは一体何か。ミサイルが標的とする「基地」には基地だけがあるのではない。唯一無二の尊きものに「体温」を感じるができなくなった時、人は人で居られなくなるのかもしれない▼宮崎駿監督の作品『未来少年コナン』。「おじいの言葉」が今に響く。『お前たちはまだこんなことをやっているのか。銃などを振り回しおつて。お前たちはあの大変動に何も学ばなかったのだな。その考え方が世界を滅ぼしたんだ！それが分からんのか！』▼何をもって「平和の準備」と呼ぶ。いのちを弄ぶものを競い揃えることだろうか。そうした『虚像』が引き金ひとつで容易く解体してしまうことは、既に歴史が証明しているはずだ。



きっかけ感話
【超短編】



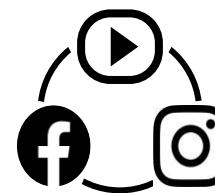
若院コラム

生きてきたよう
生かされてる
そんな私であつて
あなたである

熊木杏里
『誕生日』



WASHITE DOUZEZU



Saihou-ji Official



まるごとココから